

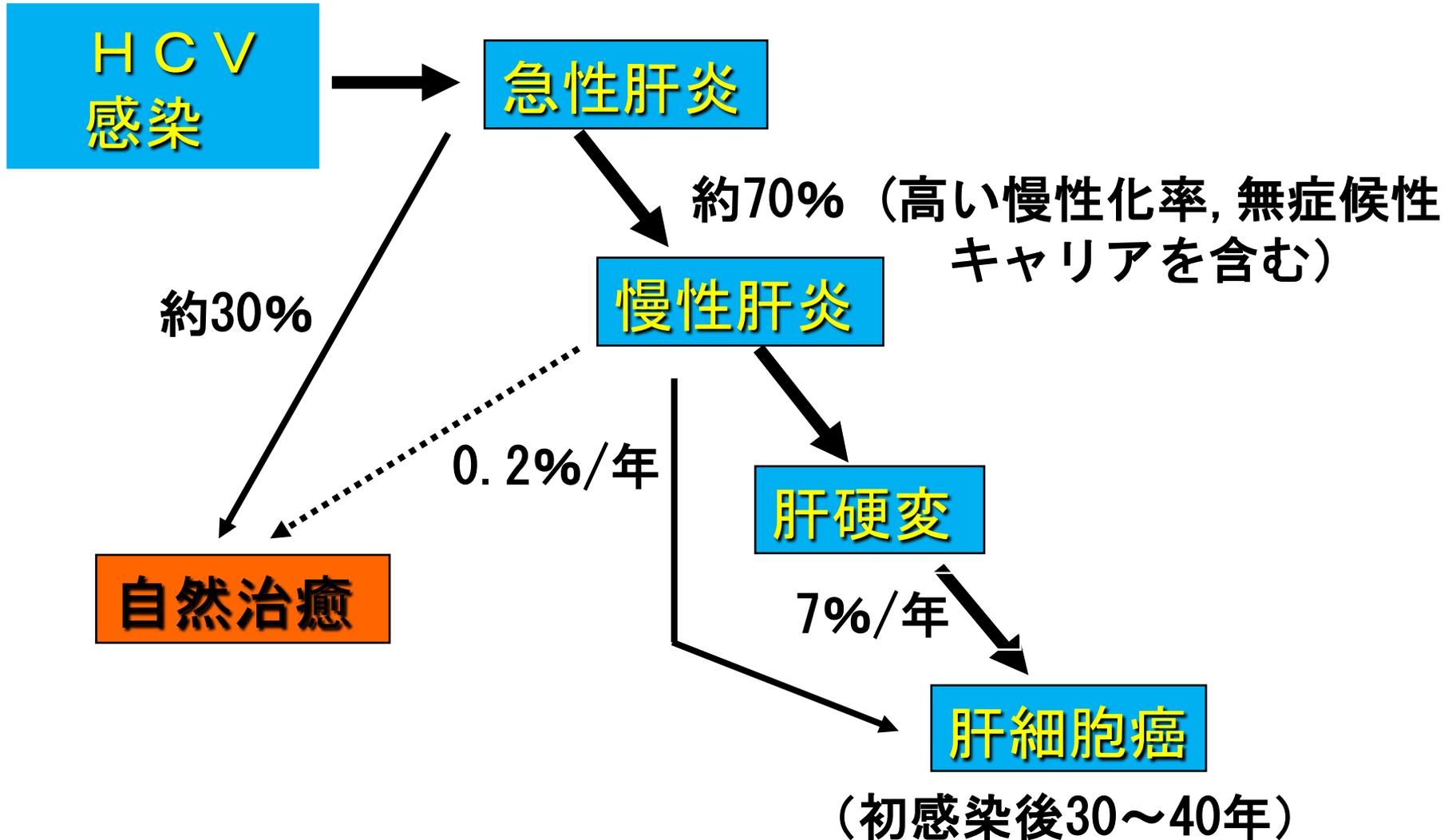
関西労災病院



肝炎治療の現状と今後の課題

関西労災病院病院長
林 紀夫

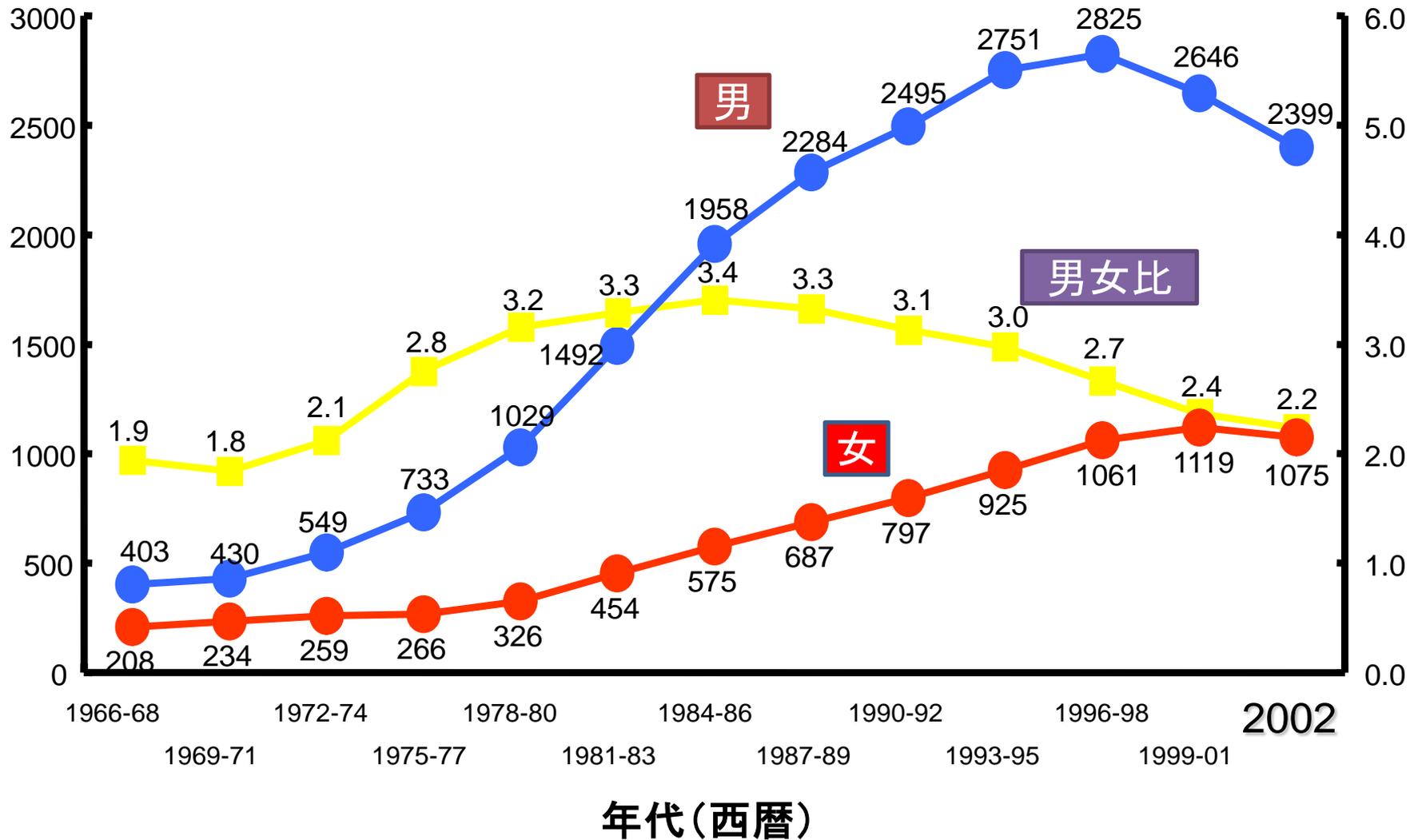
C型肝炎感染後の自然経過



肝癌発生数

肝発生数
(人)

発生数
(男/女比)



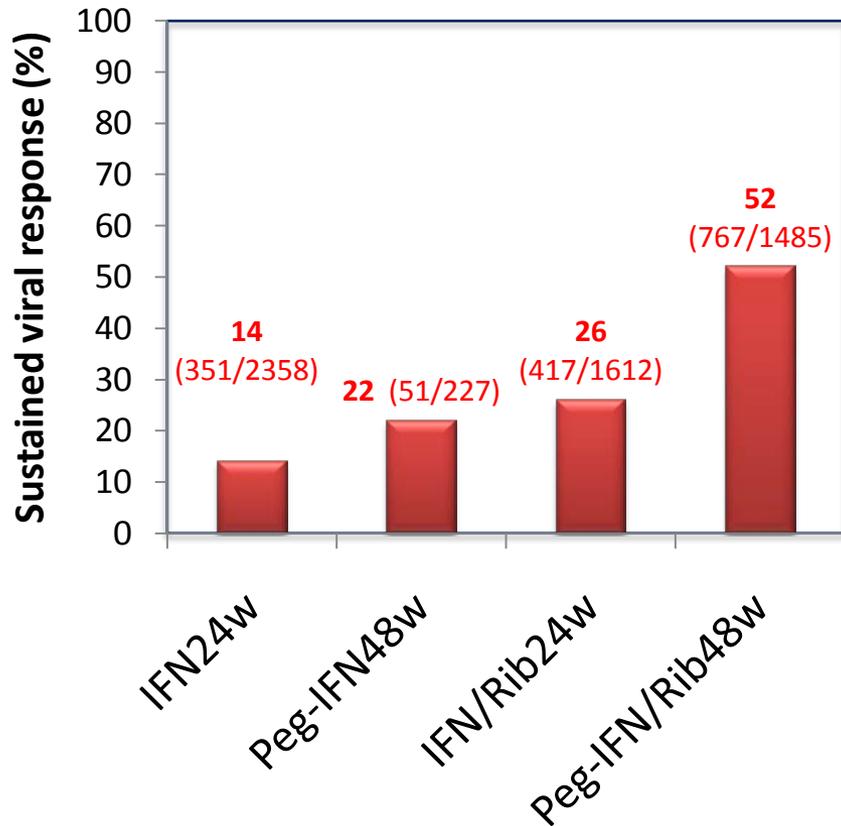
本邦におけるインターフェロン治療の変遷

1. IFN単独治療（1992年）
2. IFNとリバビリンの併用（2001年12月）
3. IFN長期投与（2002年2月）
4. Peg-IFN α -2a単独治療（2003年12月）
5. Peg-IFN α -2bとリバビリンの併用
（2004年12月）
6. IFN在宅自己注射（2005年4月）
7. Peg-IFN α -2bとリバビリンの併用の適応拡大
（2005年12月）
8. Peg-IFN α -2aとリバビリンの併用（2007年3月）

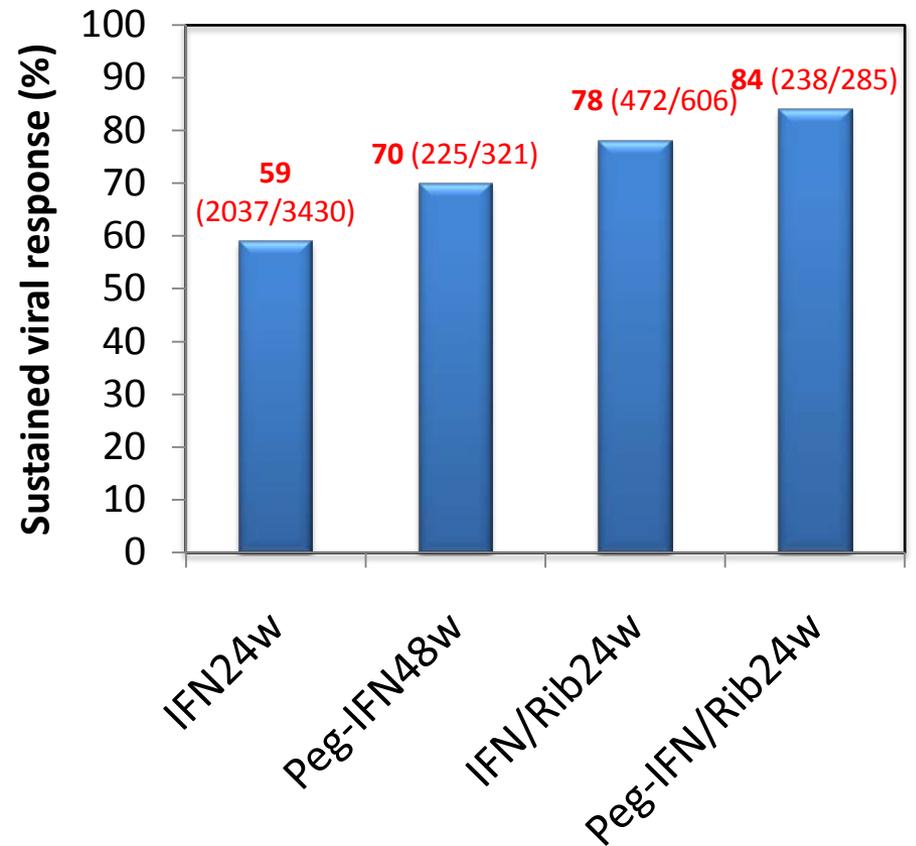
IFN治療の短期治療効果

治療法別の著効率 (PPS解析)

1型高ウイルス量

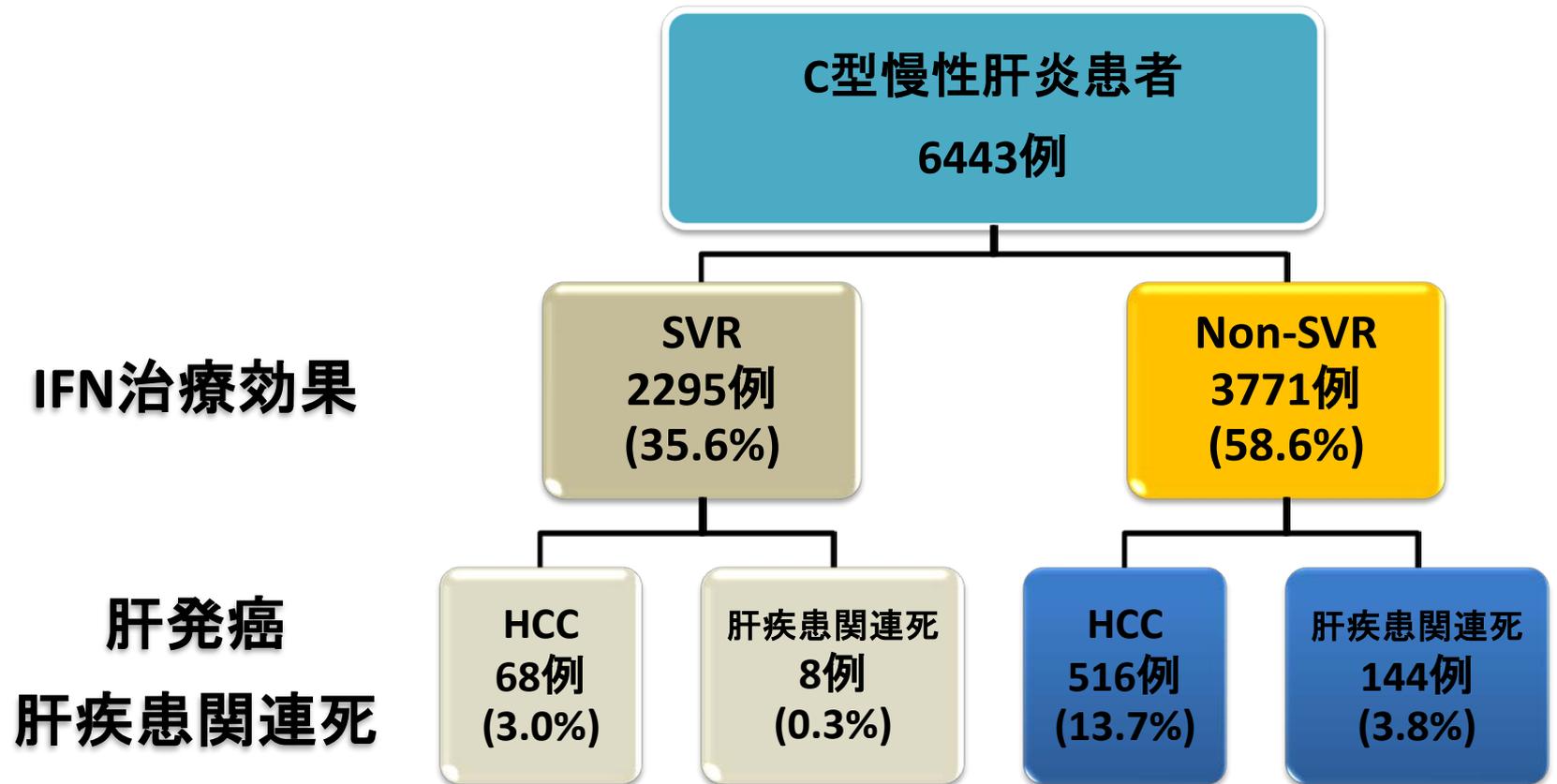


1型高ウイルス量以外



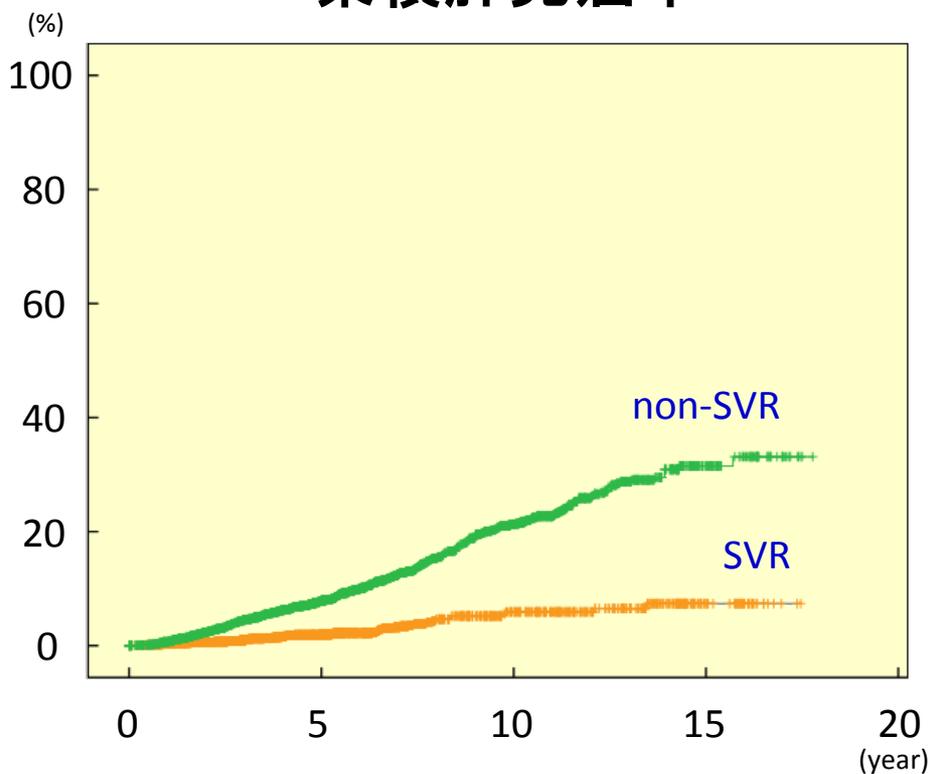
IFN治療の長期治療効果

IFN治療効果別の肝発癌率・肝疾患関連死亡率



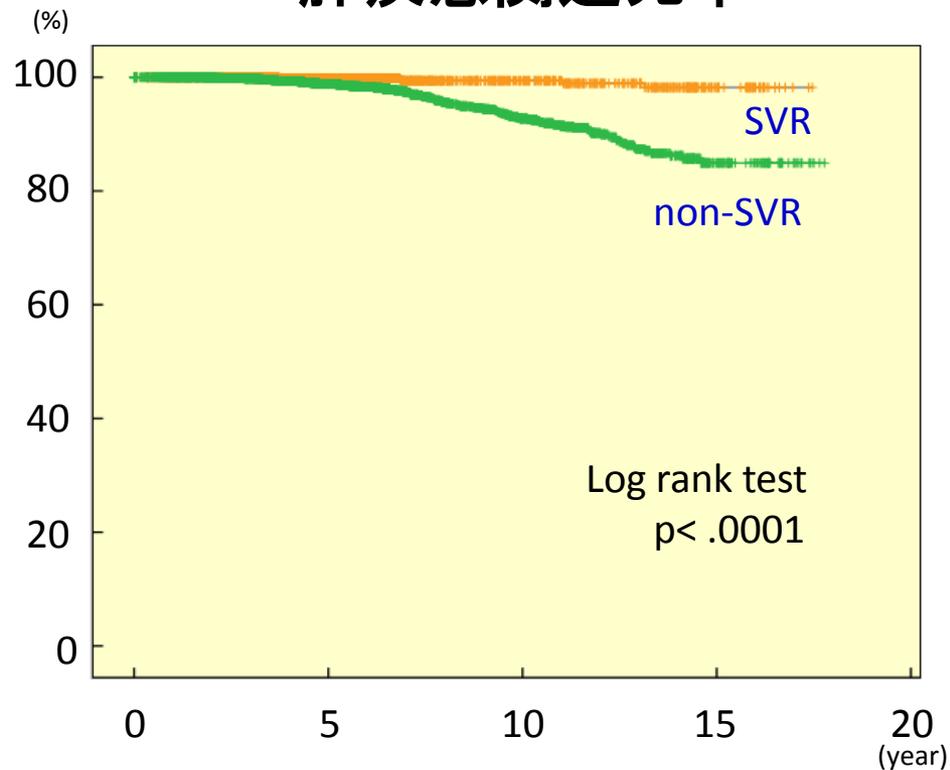
肝発癌率・肝疾患関連死亡率

累積肝発癌率



	3年	5年	10年	15年
SVR(%)	0.9	2.0	5.9	7.4
Non-SVR(%)	4.5	7.9	21.4	31.5

肝疾患関連死亡率



	3年	5年	10年	15年
SVR(%)	0.1	0.1	0.6	1.8
Non-SVR(%)	0.3	1.2	7.3	15.1

Peg-IFN/Ribavirin併用療法